



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 資金移動表

5

一定期間の収入と支出とを対照表示するようにした諸表を資金表という。この資金表を作成する目的は、収入・支出の状況が良好・健全であるか、支払能力があるかどうかを検討するためである。

資金表には①資金繰表 ②資金運用表 ③資金移動表など各種のものが考案されているが、本稿では資金移動表の作り方および見方について解説することにする。

資金移動表は主として、外部分析者が当該企業の外部報告用の財務諸表に手を加え、当該企業の資金の移動状況を検討するために考案された資金表である。いわゆる比率分析が主として企業間の相互比較を対象としたのに対し、ひとつの会社の期間における資金繰りの状況を調べることに、そのねらいを置いているともいえる。

10

資金移動表は、貸借対照表科目の期間増減と損益計算書科目とを組み合わせ、非資金取引の修正を施して、収入・支出の状況を明示しようというものである。最も頻繁に使われている資金移動表は三部制の資金移動表であろう。そこでは収支の検討のために、①経常収支 ②決算設備関係等収支 ③財務関係収支の三つ（3部）に収支を分けて資金の移動の状況、すなわち資金繰りの結果を検討する。まず経常収支をみる。経常収支が収入超過であれば、資金繰りはまず良好、支出超過であれば資金繰りのために外部より資金を調達しなければならないから資金繰りは苦しくなる。長期的にいくつかの期間（たとえば5～6年）に渡って経常収支がマイナスであれば、いつまでたっても資金的に儲らない状況が出現するわけであるから、いくら期間損益がプラスであっても資金繰りの状況は苦しい。

15

20

第二は決算設備関係等の収支である。ここには設備投資（除却）およびその他の投資額、投資の成果である利益の分配額、税金の支払額等の収支がある。その他に科目の性格が明瞭でない「その他の流動資産」や「その他の流動負債」などの科目の増減もこの欄に加えて処理してしまう。最後に財務関係収支を見る。ここには借入金が増減や手形の割引、増資など調達資本の収支が入る。

25

### 資金移動表の作り方

A B C会社の財務諸表によって資金移動表の作り方を示すことにする。

#### 1. 営業収入の計算

営業収入とは、主として製商品の売上から生じた現金収入もしくは売上債権の回収高である。そこで売上収入であるが、売上収入は次の式で表わされる。

30

$$(1) \text{売上収入} = \text{売上高} \mp \text{売上債権増(減)} \pm \text{前受金増(減)}$$

なぜなら

$$\circ \text{期首売上債権有高} + \text{当期売上高 (前受金振替分含まず)} - \text{売上収入 (回収高)} = \text{期末売上債権有高}$$

35